

風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2014 冬号

69

公益財団法人 和歌山県文化財センター

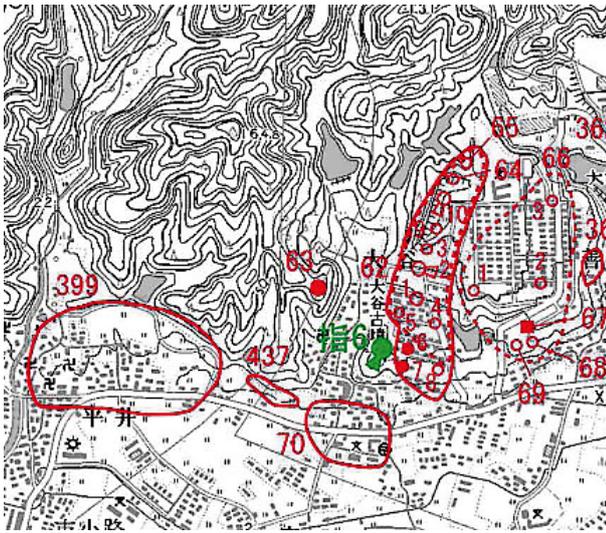
特集
平井遺跡第3次・第4次発掘調査



特集 平井遺跡第3次・第4次発掘調査

はじめに

平井遺跡（399）では、一般国道26号第二阪和国道の建設工事に伴い、国土交通省の委託を受け、平成25年度に第1次及び第2次の発掘調査を行いました。今回紹介するのは、平成26年4月から7月にかけて、約670㎡を対象とした第3次



遺跡位置図

調査と、平

成26年6月

から9月に

かけて、約

1,700

㎡を対象と

した第4次

調査の調

査成果で

す。調査地

は、第1次

調査地の北

西に位置し、調査前の現況は水田です。遺

構検出面は、第3次調査区及び第4次調査

区ともに1面の範囲と2面の範囲がありま

す。なお、既往の調査内容及び遺跡の位置

や環境などは、既刊の風車63号及び67号を

ご参照下さい。

第3次調査

第1遺構面検出遺構

第1遺構面で検出した遺構には、近世の



調査地

土坑や溝、中世及び古代の柱穴などがありますが、近世以降に削平を受けたためか、遺構密度は希薄です。

第2遺構面検出遺構

第2遺構面検出の遺構には、弥生時代の竪穴建物、方形周溝墓、土坑、溝、ピットなどがあります。

33 竪穴建物

調査区北側中央部で検出した竪穴建物で、規模は直径4.4～4.6m、深さは15cm前後です。中央に直径1.0m、深さ35cm程の土坑があり、その両側の相対する位置に直径10cm、深さ約30cmの2つの小穴を設けた、いわゆる松菊里型住居です。

44 竪穴建物

調査区中央部で検出した竪穴建物で、全体の1/2弱は調査区外です。平面形は円形で、同心円状に1回の拡張を行っています。規模は、拡張前が4.1m、拡



第3次調査 第2遺構面



33 竪穴建物

張後は約5.0mです。

59土坑 44竪穴建物の東側で検出した大型の土坑です。完形品を含む弥生土器が多数出土する他、木器の未製品や獣骨が出土しています。

2方形周溝墓 調査地東端部で検出しました。規模は東西10.4m×南北8.6m、周溝の幅は0.7～1.9mと場所により異なります。墳丘は長方形で8.8m×7.6m、盛土は削平されており、埋葬施設は遺存していません。周溝からは完形品を含む弥生土器が多数出土しています。

埴輪窯の調査

第1次調査で埴輪窯が2基検出され、現地保存されることになった範囲について諸作業を実施しました。作業は、257埴輪

窯（2号窯）及び灰原部の外縁を含めた範囲の剥ぎ取り（型取り）保存作業を実施した後、窯体部及び灰原を窯構築面（操業開始面）まで掘り下げ、その後、222埴輪窯（1号窯）及び灰原を含む現地保存範囲について、砂を使用して埋戻した後、シートで養生を行い現地作業を完了しました。



257 埴輪窯（2号窯）

第4次調査

第1遺構面検出遺構

第1遺構面で検出した遺構には、古墳時代の横穴式石室や土坑、古代から中世にかけての柱穴・土坑・溝などがあります。

63横穴式石室 調査地の東半部で検出した南西に開口する両袖式の横穴式石室です。玄室と羨道の基底部の石1～2段分のみが残存していました。玄室の規模は、長さ2.5m・幅1.4m。羨道は、幅0.8～0.9mで、長さ

約2.0m分を検出しています。また、玄室と羨道の中央部に10cm前後の小礫を使用した排水溝を設けています。石室の石材は、0.7m×0.5m前後の大型のものが多く、玄室では長辺を縦方向に使用しているものが多くみられます。出土遺物は、完形の須恵器や土師器のほか、耳環が1点出土しています。耳環は、銅芯に銀箔を施したも



第4次調査 第1遺構面

のです。

85横穴式石室 63横穴式石室の約23m南東で検出した南西に開口する両袖式の横穴式石室です。63石室と同様に玄室と羨道の基底部の石1〜2段分のみが残存しています。玄室の規模は、長さ2.2m・幅1.4m。羨道は、幅0.8mで、長さ1.4m分を検出しまし

た。羨道の中央部に小礫を使用した排水溝を設けています。玄室は、63石室と同じく大型の石材を使用し、最も規模の大きな石材は約1.3m×1.0mで、数点は長辺を縦方向に使用しています。遺物は、須恵器や土師器の完形品が複数出土しているほか、羨道から耳環が1点出土しました。銅芯に金



85 横穴式石室



63 横穴式石室



85 横穴式石室 遺物出土状況



63 横穴式石室 遺物出土状況

箔を施しています。また、玄室中央部の左側壁側で人骨が出土し、頭部と脚部の一部と思われる。

第2遺構面 検出遺構

第2遺構面では、弥生時代の竪穴建物、土坑、溝、ピットなどを検出しました。

42竪穴建物・61竪穴建物 調査区西部で検出した竪穴建物で、重複関係にあります。42竪穴は2回建替えを



第4次調査 第2遺構面

行っていると考えられますが、さらに別の
 堅穴と重複している可能性もあります。直
 径は、4.3～4.7 m ↓ 6.0～6.1 m ↓ 6.6～6.9 m と次
 第に規模を大きくしています。中央に1.0×
 1.3 mの楕円形を呈する深さ約50 cmの土坑が
 あり、その両側の相対する位置に直径20～
 45 cm・深さ約40 cmの2つの小穴を設けた、
 いわゆる松菊里型住居と呼ばれるものです。
 61堅穴の規模は、5.2～5.6 mで、深さは20～
 30 cm前後です。



42 堅穴建物 (左) ・ 61 堅穴建物 (右)



136 堅穴建物



114 堅穴建物 (奥) ・ 117 堅穴建物 (手前)

前後です。117 堅穴は、その一部しか
 残存していませんが、拡張を1回行ってい
 たことが確認できました。

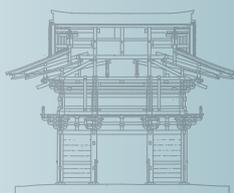
136 堅穴建物 中央部は水田に伴う
 用水路で破壊されています。形はやや歪で
 すが円形を呈し、直径は約6.1 m、深さは最
 大約10 cm残っていました。

まとめ

横穴式石室は、平成25年度の第1次調査
 で1基を検出し、石材が抜き取られたと考
 えられる土坑状の遺構1基が確認されてい
 ます。今回検出した2基と合わせれば計4
 基の古墳に伴う石室の存在が明らかとなり
 ました。何れも基底部が残存していたのみ
 であることを考えれば、更に数基の存在も
 想定されます。詳細な時期は、今後の整理
 作業を経る必要がありますが、今回検出し
 た2基の時期は、63石室は6世紀中葉、85
 石室は6世紀後葉から7世紀初頭と考えら
 れます。

弥生時代の堅穴建物は、第3次調査で2
 棟、第4次調査で5棟を検出し、合計7棟
 の存在を確認することができました。時期
 は、第3次調査の2棟は弥生時代中期中葉、
 第4次調査で検出した堅穴建物はそれより
 新しく中期後葉から後期前葉と考えられま
 す。

(井石 好裕)



金剛峯寺伽藍中門の再建

平成二十七年は弘法大師空海が弘仁七年（八一六）に高野山を開創してから一二〇〇年の節目となり、四月二日より五十日間の記念大法会が予定されています。その記念事業の目玉として、壇上伽藍南側にかつて存在した中門が再建されました。

中門は当初、金堂前の壇上に華表（鳥居）として設けられたとされており、その後門形式となり、現在の位置に移されました。その間何度も焼失と再建が繰り返され、天保一四年（一八四三）に六代目の中門が焼失して以後は再建されず、跡地には礎石のみが残っていました。

発掘調査を行ったところ、この位置にて、同規模で三度にわたり再建、焼失が繰り返されていたことが判りました。また、雨落ち溝が検出されたことから、屋根の大きさも特定出来ました。高さ関係は不明ですが、最後の焼失の際に救出された二天像が現存し、この像が安置されていたことから、像

の高さが一つの目安となります。さらに、絵図や史料により型式は五間三戸楼門、屋根は檜皮葺き、扉は無く、全体に赤く塗られていたことが判りました。

今回再建する中門の様式は、初めて現位置にて五間三戸楼門の型式で建てられた建長五年（一二五三）再建時の鎌倉時代頃を目標としました。これは、最後の焼失前までこの規模と型式が引き継がれたことや、昭和九年に再建された壇上の金堂の時代様式と揃えるためです。細部の納まり

や意匠、プロポーシオンなどを決めるため、全国に現存する類例を調べましたが、実は五間三戸楼門は全国的に珍しく、江戸時代以降に建てられた三例のみでし



かつての中門跡地。礎石が露出していた。



落慶法要を待つ中門。手前の白い点が元の礎石位置。金堂と中心軸を揃えるため、場所を移して再建された。金剛峯寺大門のように初層にも屋根が付くと二重門となる。

かつて中門が存在したのは一七二年前。その姿を見た人はこの世には居ません。今回再建された中門が、「かつて無かった」ことを見ていた我々は、歴史の転換点を目撃したのかもしれない。中門の落慶法要は四月二日に執り行われる予定です。（結城啓司）

日本の国宝建造物と言え、法隆寺五重塔を思い浮かべる人も多いのでは。新幹線に乗っても、京都駅に近づくとまず目に入るのが東寺の五重塔。文豪幸田露伴の著名な小説はその名も『五重塔』と、古建築Ⅱ五重塔といった勢いです。しかし「凍れる音楽」とも、日本で最も美しい建物とも評される薬師寺東塔は三重塔。和歌山県内でも道成寺に三重塔があり、これも全国的には数多く見られる形式です。しかし県下では、このほか慈尊院に室町時代に三重塔として計画された建物が残るくらいで、極めて少数派です。和歌山では塔自体があまり作られなかったのでしょうか。

いえ、金剛三昧院、長保寺、根来寺には、日本を代表する国宝の塔があります。その名は多宝塔。弘法大師が考案した真言宗独自の形式と言われており、県内には根来の巨大な大塔から、有田川町安楽寺の建物内に納まる小塔まで、文化財に指定された建物だけでも数、バリエーションともに豊富です。共通するのは、四角い下層に日本の伝統建築ではめずらしい丸い平面の上層が載るように見える独特の姿。しかし大塔の中に入ると、下層も柱が円形に配され、本来丸い平面の塔に庇が廻された建物であることがわかります。

卒塔婆と言われる塔の語源。多宝塔の優美な曲線を前にすると、はるか古代、アシヨカ王が建てさせたストウパーに思いを馳せませす。サンチーからの乾いた風が、塔に込められた思いを運びます。



重要文化財安楽寺多宝小塔
南北朝に遡るキュートな姿

(多井 忠嗣)

きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

現在、当センターでは、和歌山城跡の発掘調査をとりまとめて報告書を刊行する整理業務を急ピッチで進めています。

先日その作業をのぞきにいったのですが、まあ、なんというかかなり違和感がありましたね。日頃、縄文とか弥生土器、あるいは古墳時代の土師器といった赤茶けた素朴な土器を対象とすることが多い中で、和歌山城跡の遺物は伊万里や瀬戸といった絵柄もはなやかな磁器が主体です。極端な言い方をすれば、現代の焼物とほとんど変わりません。

「磁器」というのは、高温で焼成され吸水性がなく、叩けば金属音のする焼物ですね。お隣りの中国は焼物に関しては先進国ですから、二千年前、後漢の時代にはこの技術を確立させています。日本ではよく知られているように豊臣秀吉が朝鮮出兵（文禄・慶長の役）の折、陶工を連れ帰り、九州の有田（伊万里）で作るのが最初ですから17世紀の初めのことです。

意外に知られていませんが、ヨーロッパはもっと遅いですね。ドイツのマイセンはこれより百年遅い18世紀の前半、デンマークのロイヤルコペンハーゲンも18世紀後半になってからです。

ともかく和歌山城跡の土器をみてみると、現代の我々の家庭の食器の有り様とさほど変わらないことに驚かされます。

さて、そこで問題ですが、現代の一般家庭で日常使われている食器では、どこの製品が一番多いと思われるか？ 伊万里？ 瀬戸？ それとも出石？ あるいは砥部？

ザンネンですね。正解は、某大手製パン会社の『白い皿』だと思いますよ。少なくとも庶民を代表する我が家では、この白い皿が幅をきかせています。あの季節、ポイントを貯めるためにどれほどのパンを食べさせられてきたことか――。

(村田 弘)

催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2014年冬～2015年春)

(公財) 和歌山県文化財センター

- 「紀州のあゆみ－和歌山県内埋蔵文化財調査成果展－」 ※展示会は県内3会場を巡回して開催します
場所：田辺市立歴史民俗資料館 2015年 1月27日(火)～2月15日(日)
- 公開シンポジウム「和歌山城と城下町の風景」 ※定員：先着150名(申し込み不要) 参加無料
場所：イオンモール和歌山3F イオンホール 2015年 3月 8日(日) 10:30～16:30

和歌山県立紀伊風土記の丘

- 冬期企画展「谷井コレクション展 ～考古学者・谷井済一の軌跡～」
2015年 1月14日(水)～2月15日(日)
- 春期企画展「紀の川の青い石」
2015年 3月 3日(火)～6月14日(日)

和歌山県立博物館

- 企画展「墨一色－拓本の世界－」 2014年12月16日(火)～2015年 1月18日(日)
- 企画展「描かれた紀州」 2015年 1月24日(土)～3月 8日(日)
- 企画展「みほとけのすがた」 2015年 3月14日(土)～4月19日(日)

高野山霊宝館

- 高野山開創1200年記念展「初公開！高野山の御神宝」前期 2015年 3月21日(土)～5月21日(木)
後期 2015年 5月30日(土)～7月 5日(日)

和歌山市立博物館

- 特別陳列「歴史を語る道具たち」 2015年 1月14日(水)～3月 1日(日)

掲載内容は変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

目次

- 1 表紙 平井遺跡第4次調査 調査地(北西から)
- 2 特集「平井遺跡第3次・第4次発掘調査」
- 6 文化財建造物課 短信 「金剛峯寺伽藍中門の再建」
- 7 きのくに歴史小話「古建築修理の逸話⑩ 塔」
「発掘屋余話⑧ 白い皿」
- 8 催し物案内



風車69 (2014・冬号)

平成27年1月30日

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp>

(公財)和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263-1
TEL 073-472-3710
FAX 073-474-2270
maizou-1@wabunse.or.jp

2014年7月1日より、事務局が上記の住所に移転しています。